
適当なプロログ集？

音位 柑奈

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

適当なプロローグ集？

【Nコード】

N7829W

【作者名】

音位 柑奈

【あらすじ】

これは自分が文章力を上げるために書きたくなくて書いたプロローグ集ですが、続きはないのであしからず・・・

まおーの世界（前書き）

絵本タイプ

まおーの世界

あるところに、娘のお姫様のことが大好きで大好きで仕方のない王様が、おりました。

その王様はよく働く賢い王さまで国の民からはそれは、それは慕われておりました。

ですが、一つだけ娘のことだけはかまいすぎて、臣下のみなに迷惑をかけたりしてしまいます。

そのことだけがみな不安でした。

あるとき王さまは、愛情のあまりとんでもないことを言い出しました。

「娘には万が一にも危険なことがあつてはならない、

だから新しく城を作り兵士達に守らせてそこでずっと暮らさせよう」

そのことを聞いた家臣たちは大慌てです。

みんな王様のことをとめようとしますが、なにを言っても聞いてくれません。

そこで、仕方なく城を作ることになったのですが、

お姫様の暮らす城はどんなことがあつても壊れてはならない、危険があつてはならないと王さまが言ったので、

お城を建てるのはそれはそれは大変でした。

それでも臣下や国の民のみんなががんばって、壊れず、危険の無いお城は出来ました。

そして、お城にお姫様が移動したとき、どこから壊れず、危険の無いお城の話聞いた

いたずらものまおーがやってきて言いました。

「壊れず、危険の無いお城がほしいなら、俺様がそんな城にしてやるうではないか」

そういうとまおーはお城に魔法をかけました、お城の時間をとめる魔法です。

お城の時間が止まってしまったため、お城は壊れず、危険はなくなりましたが、

だれも入ることは出来なくなってしまいました。

おしまい

そういつて私は絵本を閉じた。

このお話が本当のことだとも知らずに・・・

まおーの世界（後書き）

最後が尻すぼみになった

黒剣と黒い王国（前書き）

よくあるファンタジーです

黒剣と黒い王国

ガキン、キンツ金属のぶつかる音が鳴り響く

「ねえダーク、私ちよつとぞくぞくするんだけどこれってヤバイかな？」

大人びた少女の声に何処か優しげな声が答える

『ああ、十分にヤバイぞクロナ具体的に言えば戦闘狂の扉の第一歩が開いたってぐらいにヤバイ』

「そつかー、でもダークと一緒に舞えるなら戦闘狂でもいいかも」

『おいおい、かってに俺を巻き込むなよ。』

戦闘狂になるなら一人であってくれ』

そんな会話に冷たい少し高く冷たい声が割り込んでくる

「戦闘中に私を放って、他の男と会話ですか……少し妬けますね」

「言ってるこの女好きー、戦いながらまで口説くなー」

「私は女性が好きなのではありませんよ、あなたが好きなのです」

「うわー、またそんなこと言うー、そもそもなんで私が好きなのさ」

「それはですね出あったと「あ、やっぱいいや、パス」つれないで

すね……まあいでしょう、それではそろそろ決着をつけ
ましょうか、私の花嫁になってもらうために」

「だから、いやだって言ってるでしょうが、まあ決着はつけるけど・
……」

『んじゃ、そろそろいくか?』

「いこうダーク」

『黒剣、闇薔薇』

「じゃあ、私もいきますかね」

『白剣、白百合』

『＜解放＞』

「はあああ」

「うおおお」

二つの剣がぶつかり合い、周囲は白い光に飲み込まれた……

黒剣と黒い王国（後書き）

剣の名前や、声に説明をつけたのには意味がありません
なんとなくでつけました

羽が生えたら（前書き）

よくあるラブコメの導入部分です

羽が生えたら

ピピッ、ピピピッ、ピピッ、ピピピッ

目覚ましの鳴る音で僕はおきたんだが、
背中に違和感がある・・・うゝん枕でも潰してるのかな？
枕は二つ使っているからたまにあるんだけど、
なんだか枕とは違う感じがする。

（ま、つかんでみれば何とかなるか）

と思ったんで背中あたりに手を突っ込んだら
なんだかふわふわしたものだった

（なんだこれ、やつぱり枕？でも取れないし・・・）

つかんで軽く引つ張ってみても取れなかったんで、
ム力ついて思いつきり引つ張ったら

背中の中から《・・・・・・・・》なにか抜けるような感じがして
あまりの痛さに叫んでしまうような激痛が走った

「いつてええええええ」

つーか叫んだ。

んで、しばらくの間痛さにもだえた後、
手の中にやわらかい感触が残っていたので
手の中を確認してみると

「羽！？」

手の中には羽があつた。

- - - - -

- - - - -

ドタドタと、階段を駆け下りていく

そして、駆け下りたりビングに父さん、母さんがいたから

「父さん、母さん、なんか羽が生えた！」

って言ったら

「おお、ようやく生えたか、

いやーめでたい、めでたい」

「そうね、めでたいわ」

「へっ？めでたいってなにが？羽が生えて来たんだよ？」

「うん？だからめでたいんじゃないか」

(アレ・・・？何だろう・・・この食い違い)

「そういえばお父さん私達、鳥華族ちゅうかぞくだってことはなしましたっけ」

「鳥華族？なにそれ？」

「あれゝ話してなかったっけ？」

「確か、15歳の誕生日に話す予定じゃなかったかしら」

「おお、そうだった、そうだった、んで15歳の誕生日は何月何日だっけ」

とか言う会話になってきたから僕は、怒気を孕んだ声で

「あのね、僕の15歳の誕生日は4月7日で、今から一ヶ月《・・・前だけど、

話されたことなんて1度もないからね？」

って言ったら、また

「おお、そうだったかじゃあ後何日だっけ」

「お父さん、4月7日はあと334日後ですよ」

とか言ってるから僕は怒った……

「だから僕の誕生日は一ヶ月前だって言ってるでしょうが、それよりも早く羽の説明しやがれえええ」

- - -
- - -
- - -

羽が生えたら（後書き）

感嘆符、疑問符多用しすぎだ・・・
もうちよい減らせるようにがんばります

王よ

王よ、ああ王よ

なぜ、王はいないのか

敵を切り裂く力を持ちしものよ

味方を動かす指揮を持ちしものよ

人を惹きつける魅力を持ちしものよ

ああ王よ、ああ王よ

どれか一つでいいどれでもいい、

どれかを持ちし王の資格を持ちしものよ

われらの前に現れてくれ

わたしは

中途半端な力しかもたず

決してうまいとはいえない指揮しかあらず

人もあまりひきつけることは出来ぬ

このうち

力と指揮を持った他国の王は言った

私は成り行きでなったが

王を続けようと思うと

指揮と魅力を持った王は言った

私は生き残りだ

続くためには残党をまとめるしかなかった

力と魅力を持った王は言った

私は目の前の敵をただ倒すだけです

ほらわかりやすいでしょう

全てを持った王は言った

全てはゲームだ

ただ楽しむだけにやっている

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7829w/>

適当なプロローグ集？

2012年1月8日23時50分発行